

桜まつり舞台風景 ~ 設立 10 周年記念 ~

--4月4日(土)・5日(日)--



----- さやま・文化の息吹 -----

次世代へと歌い継ぎたい童謡・唱歌

人はそれぞれに思い出がある愛唱歌を心に秘めています。そして、その多くが幼いころ歌った唱歌や童謡ではないでしょうか。

世界中に子どもの歌はありますが、日本ほど子どもの歌が豊かに発達した国は類を見ないと言われています。この世界に誇る日本特有の子どもの歌の文化は、詞も曲も当代一流の作者により生み出されており、歌が生まれた時代の背景はさまざまでも、日本の風土に根ざした作品は、いつの時代でも心の琴線をそっと撫でていきます。

幼少期に聴いたり歌ったりした歌は、無意識のうちに人間感情の基層を成し、他者へのあたたかい思いやりや、四季折々の自然に対する日本人独特の感性もじんわりと育ててきたように思います。

今、子ども達をめぐる環境が厳しい時代だからこそ、童謡・唱歌を親子が一緒に唱和し、穏やかに心を通わせてくれることを願っています。

現在の童謡連盟はわずか2団体の加盟で、連盟とは名ばかりですが、所属の「童謡を歌い継ぐ会」は、昨年度より文化庁委嘱「伝統文化子ども教室」事業に参加して小さな一歩を踏み出し、また文団連の催事には、子ども達も共演を楽しみました。

各公民館で童謡を歌っている団体や個人も、懐かしい歌として楽しむだけでなく、この大切な文化を次世代へと歌い継ぐ知恵と力を出し合うために、童謡連盟への加入を心から切望しています。



狭山市童謡連盟 野口 盈子